

事務 事業名	コード1	29200	道路維持補修事業	課	建設課					
	コード2			所属班	土木班					
			☒ 主要事業	電話番号	57-1193	内線	40			
施策 体系	基本方針	1	安全で魅力のあるまちづくり	予算	会計			款	項	目
	施策	2	道路・公共交通網の整備	科目	一般会計			8	2	2
	施策の展開	4	市道の整備	根拠 法令	道路法、旭市法定外公共物管理条例					
	基本事業	18	市道の維持管理							

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 平成__年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成__年度～ 平成__年度まで ※全体像を記述→	市道の舗装及び付属施設の破損をパトロール及び地元住民からの要望等により把握し、緊急性のあるものから維持補修計画を作成して市道の維持補修を行うものである。 【業務の流れ】 維持補修計画を作成し、測量等を行って設計書を作成後、工事発注をする。工事完了後に完了検査を実施する。

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(25年度の実績)	単位:千円
1.道路補修委託料	17,000
2.調査・測量委託料	10,404
3.道路舗装改修工事	107,040
	0
	0
【歳入】社会資本整備総合交付金:23,761千円、道路維持補修事業債:19,300千円ほか	
② 延べ業務時間の内訳(25年度の実績)	単位:時間
パトロール、要望等による現場確認	200時間
現地踏査、測量	400時間
設計、積算	800時間
工事監督	600時間

事業費 (総額を含む)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
1.道路補修委託料	千円	17,000	17,000	17,000	17,000
2.調査・測量委託料	千円			10,404	
3.道路舗装改修工事	千円	102,565	116,090	107,040	83,788
	千円				
事業費計(A)	千円	119,565	133,090	134,444	100,788
うち一般財源	千円	47,953	117,883	83,541	89,000
正規職員従事人数	人	0.99	0.94	0.99	0.89
延べ業務時間	時間	2,000	1,900	2,000	1,800
人件費計(B)	千円	7,600	7,220	7,600	6,840
トータルコスト(A)+(B)	千円	127,165	140,310	142,044	107,628

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	25年度実績(25年度に行った主な活動) 市道における破損箇所(舗装及び付属施設等)の維持補修 26年度計画(26年度に計画している主な活動) 市道における破損箇所(舗装及び付属施設等)の維持補修 市道における維持補修計画策定のための点検調査	ア 維持補修対象路線数 イ 維持補修延長 ウ	路線 m	46 2,894	54 3,099	66 1,895	44 2,050
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	ア 市道 イ 利用者(市民)	ア 維持補修対象道路延長(認定市道延長) イ 人口(4月1日現在)	km 人	1,105 69,749	1,090 69,223	1,094 68,725	1,096 68,241
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	ア 安全性の向上 イ 安心して通行できる	ア 住民が安全に利用できる道路と感じる件数 (年間要望・苦情の件数) イ 道路維持管理に起因する車両事故件数	路線 件	1,322 6	2,052 1	2,000 5	- 5
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	安全で円滑な交通の確保	ア 舗装率(1・2級) イ 舗装率(その他)	% %	95.7 63.4	99.0 63.4	99.0 63.5	99.0 63.5

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
車社会の到来により、舗装道路における破損の進行が著しく、破損箇所が起因となる交通事故や2次災害防止の目的ため、事業を実施している。	大型車両の増大により開始時期の舗装構成では強度が不足している路線が見受けられる。	道路破損箇所が起因となったタイヤのパンク、自転車の転倒などの報告。補修の早急な対応が求められている。

事務事業名	道路維持補修事業	課名	建設課	班名	土木班
-------	----------	----	-----	----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 市民が安全に道路を通行できることは、市民が安全に生活することにつながる。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 市民等の利用者に安全に道路を通行してもらうため、必要な道路補修を実施する事業であり、対象・意図ともに適切である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 生活の基盤である市道を補修し、適切に維持管理することは、道路管理者として市の責任である。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 近年、車両の増加に伴い市道の老朽化が進行しており、補修対象箇所(要望・苦情件数)が増加傾向にある。突発的な破損も多く予算内で実施することが困難である。近隣市も同様な状況である。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	☒ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 住民要望の増加に伴い、対応すべき路線の数は増える。工事の必要性を考慮しても対応しなければならない箇所は年々増加傾向にあるため、活動量を増やせば成果の向上は期待できる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業なし
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現状でも事業費が不足しており、場合によって要望等の対応が後年度へ先送りになっている状況もあるため、削減余地はない。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業量に対し人員が不足している現在の状況では削減余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 市道は市民誰もが利用できるものであるため、公平である。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果		(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	近年、車両の増加に伴い市道の老朽化が進行しており、補修対象箇所(要望・苦情件数)が増加傾向にあるが、事業費、人員ともに不足しており、場合によって要望等の対応が後年度へ先送りになっている状況もある。市道の維持補修計画を策定し、効率的な事業の促進を図る必要がある。	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性		(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持				低下			
					コスト																		
			削減	維持	増加																		
成果	向上			○																			
	維持																						
	低下																						
☐ 目的再設定 ☐ 行政関与の見直し ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☐ 事業統廃合・連携(関連事業：) ☐ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 費用負担の適正化 ☐ 廃止・休止																							
(2)改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？																							
いつまでに	なにを、どうするのか？																						
平成30年度まで	市道の維持補修計画を策定し効率的な事業の促進を図る。																						
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																							
課題 事業量増大による事業費及び人件費の増加 解決策 他事業を精査して削減																							